

開催報告

令和 6 年 12 月 13 日 (金) 13:30-15:00、研究大学コンソーシアム「学術情報流通の在り方に関する連絡会」の主催により学術情報流通に関する連続セミナー (第 7 回)「オープンアクセス時代の責任ある研究・イノベーションと研究者の実像」を開催しました。

大阪大学 社会技術共創研究センターの標葉隆馬准教授を講師に招き、「責任ある研究・イノベーション (Responsible Research Innovation : RRI) 」の考え方を背景とした、ヨーロッパの主要研究プログラムでのオープンアクセス/オープンサイエンス浸透状況、世界的な研究評価の動向について解説していただきました。RRI とは、研究・イノベーションのサイクル全体で幅広いアクター (研究者、市民、政策担当者、企業等) の問題意識や価値観を包摂し、相互の応答やプロセス自体の省察をふまえて、イノベーションの推進を志向することを指します。講演ではさらに、日本の科学技術政策の変遷、評価についての若手研究者の意識調査なども紹介され、多角的に研究のあり方を考える貴重な機会となりました。

自然科学研究機構の小泉周特任教授によるファシリテーションで行われた質疑応答は、会場・オンラインから、RRI の文脈で考えた時の研究者の行動変容や、データをオープンにするときの考え方など、多種多様な質問や意見が寄せられました。

講演終了後に会場で開催されたアフターセッションには、対面参加者の大部分が参加し、講師を囲んで活発な意見交換が行われました。

■参加者数 169 名 (対面 23 名、オンライン 146 名)

■アンケート結果 回答数 : 58

○職種

大学職員 (図書系) : 34 URA : 9 大学職員 (研究推進系) : 5 大学教員・研究職 : 4
出版関係者 : 2 その他 : 4

○機関

国立大学 : 42 私立大学 : 9 公立大学 : 1 国立研究機関・官公庁 : 2
民間企業 : 3 その他 : 1

○セミナーは参考になりましたか

参考になった : 36 まあ参考になった : 16 あまり参考にならなかった : 6

○ご意見・ご感想 ※公開の同意をいただいたものです。

- RRI について全く知らなかったのが最初はなかなか理解が難しかったですが、質疑応答のあたりでなんとなく理解ができました。若手研究者像の話は大変興味深かったです。ありがとうございました。
 - 難しかったです。研究推進系のことも情報収集しておこうと思いました。
 - ためになる内容でした。ありがとうございました。
 - とても刺激を受けるセミナーでした。
-
- オープンデータ活用の価値の見直しとプロセス評価の重要性について、大変興味深く拝聴させていただきました。
 - 今回、研究者の方がL A B内でもデータを共有していないと聞いて驚きました。
 - 退職や異動した研究者のデータの取り扱いの話はリポジトリを運営する側にとって切実です。「オリジナル至上主義」もまた、個人の問題である前に、結局「評価」の問題だと感じます。
 - 現在、OA 加速化事業予算の元で業務を行っていますが、国の経済政策の下、というところに違和感があります。RRI という考え方、プロセスを評価する傾向が出てきているというお話に、少しホッとしました。
 - 研究者の立場でのオープンアクセス等のご意見を伺うことができ参考になった。このような機会がないので、貴重だと思っています。もう少しざっくばらんに聞きたかったです。

○今後、セミナーで取り上げてほしいテーマ ※公開の同意をいただいたものです。

- 研究・出版における日本や各国の AI の活用方針や現状
- 人社系の研究成果の国際発信について
- 即時 OA 問題、研究データ管理問題
- オープンアクセス先進国における研究データの管理状況および利活用事例
- 研究データ管理の現状とデータ公開の現状・課題について取り上げてほしいです。

写真

